

アンディ・ウォーホル

Andy Warhol 1928-1987 アメリカ

アンディ・ウォーホルは、1950年代、商業イラストを描く一方で、ポップ・アートの作品制作を試みる。以降、大衆文化のアイコンを題材にした作品で、圧倒的な支持を得た。

本展に展示の「サムという名の25匹の猫と青い子猫ちゃん」(1954)は、1954年、190冊限定出版したウォーホルの初作品集の頁に、1983年にウォーホルがサインしたもの。ウォーホルがドロ잉を描き、それを印刷・製本させ、友人達を呼び集めて、手彩色を手伝ってもらって完成させた。ドロ잉はウォーホルが編み出したインクの捺印方式で描かれ、にじみのあるとぎれとぎれの線は、流れるような動きと洗練された趣きを見せている。「フラワー」(1965)のように、1960年以降は、シルクスクリーンを多用した作品を制作。同じ版を利用し、意図的にプリントをずらしたり、インクをはみ出させたりすることで、独自のイメージを生んだ。「水彩画セットと絵筆」(1982)は、ニューヨーク視覚障害者協会への基金のために制作された版画作品。

僕は機械になりたい

アンディ・ウォーホル